

事業所名

ミライク学園

支援プログラム

作成日

令和7年

1月

11日

法人（事業所）理念		全てのこどもにみらいを					
支援方針		心・技・体を育む。 心→精神の支援。愛着障害、被虐児童へも安心感のある居場所支援。個別療育により個人の心の発達に合わせた支援、情緒の安定をはかる支援をおこなう。 技→技術の支援。SST、ABA、職業体験等の社会で生きていく力を育む。体→体力の支援。コーディネーション能力の基礎運動、粗大運動、微細運動、集団運動の療育をおこない集団生活のなかで生きていく力を育む。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	毎日の検温と、季節や温度に合った服装ができるよう個別療育の時間で児童といっしょに考える時間を設定する。毎月のこども食堂、毎日のおやつを提供時、学校休業日の昼食時等に食事も含め伝えたり、レクリエーション活動の際には調理や買い物の体験もする。個別療育の時間に発達に合わせた衣食住に関して伝えることも実施。日常生活を円滑に送れるよう家庭と連携し、一週間の流れや一日の流れについて本人が理解しやすいよう構造化した支援もおこなう。					
	運動・感覚	体力の支援。コーディネーション能力の基礎運動、協応動作系の運動を毎日個別療育、集団療育で実施。利用開始時と年度始めに体力測定を実施。粗大運動、微細運動系の運動を実施。個別療育の時間では、本人の困り感、課題感に応じて微細運動の課題や、感覚統合の課題にも取り組む。感覚の過敏さ、敏感さのある児童に対しても合理的配慮や構造化した環境で特性に配慮しながら感覚の支援も実施。					
	認知・行動	記憶の保持、情緒のコントロールができるように個別療育で課題学習を実施。課題活動の時間では神経伝達物質のコントロールを意図的に行い個々の発達に応じた脳機能を向上させていく療育を実施。また、自立した行動ができるよう本人に合わせた個別スケジュールを掲示し行動を促す。自分以外の他者を意識して行動する場面では他者への気遣いができるように集団活動の場面で意図的に周りを気にする力、協力する力、負けを認める力などを育む療育を取り入れる。					
	言語 コミュニケーション	言葉の遅れのある児童には医療機関、言語聴覚士と連携して個別療育を実施。言葉遣いについて分かりやすいよう良い悪いを具体的に伝える。言葉の理解がどの程度理解しているかを語彙のアセスメント、一語文から長語文の言語アセスメントを実施し、本人の理解に合わせた伝え方を実施。コミュニケーション支援は集団療育の場面でSSTやABAを実施。個別療育でもSSTや本人の理解に合わせた好ましいコミュニケーション支援を実施。発語の無い児童には絵カード交換式でのコミュニケーション支援も実施。					
	人間関係 社会性	人間関係を築くための社会性は個別療育の時間に教えたり、個別療育の時間に実施したSSTを集団療育場面でも活かせるよう練習する。集団運動の中では順番を守る、待つ、ルールを守る、人と合わせる、勝ち負けがあるスキルなどの社会性を運動しながら学び、身に付けることで楽しみながら社会性を育むことを目的に実施。レクリエーション活動のなかで職業体験の日も定期的に設け将来に向けた社会性を身に付ける経験をする取り組みをしている。					
家族支援		1年に1回以上の保護者会の開催、毎月のこども食堂でのお悩み相談会、親の会を実施している。利用児童の家族支援として公式LINEを活用した相談受付、半年に1回以上の面談を実施している。			移行支援		児童の状態と地域の資源の状態を考慮し、こども園、学校、放課後児童クラブと連携し、移行支援を実施している。また、ライフステージにおいて必要な療育機関、施設への移行支援も実施している。
地域支援・地域連携		施設として毎月こども食堂の開催や、夏祭りやクリスマス会等大きなイベントを開催し地域との交流、連携を図っている。通所している児童の保育園、学校とは密に連携し、定期的に訪問支援も実施している。			職員の質の向上		毎日のミーティング、毎月1回の職員会議で支援の共有と内部研修を実施している。その他、毎月1回以上各種外部研修の周知と参加、参加後の共有を実施している。
主な行事等		毎週土曜日にレクリエーションを計画し実施している。春休み、夏休み、冬休み等の学校長期休暇時にもレクリエーションを毎日実施している。児童発達支援の児童にも療育内で定期的にレクリエーションの提供をしている。また、夏祭りやクリスマス会等大きなイベントを開催し地域との交流を図っている。また、毎月1回こども食堂も開催しこども食堂内でさまざまなイベントを実施し地域との交流の場としている。					